

原油市場の不安定化と価格安定化に向けた 取り組みについて◆

小林 良和*

要旨

原油価格が大きく変動する中で、原油価格の不安定化がもたらす諸問題についての議論が産油国・消費国の双方から指摘されるようになってきている。その中では、どのような価格水準であれば消費国と産油国の双方が許容できるのかという「適正価格」についての議論も聞かれるようになってきているが、特定の価格水準を「適正価格」として特定することは困難である。「適正価格」とは産油国・消費国の双方が原油市場の安定化を追求した結果として得られる価格水準と整理するのが妥当である。

原油市場の安定化に向けた施策としては、近年高まる価格形成における「市場心理」や「情報」の重要性にかんがみ、市場に対していたずらに価格変動を生じさせるような情報提供を避け、よりバランスの取れた情報が市場に提供されるメカニズムを形成することが重要である。また何らかの需給面で予期せざる事象が発生した場合においても、それを吸収しうるだけのフレキシビリティを産油国・消費国が共に確保しておくことも価格の乱高下を抑制するという意味では有意義である。さらには、市場のプレイヤーの多様化を図り、市場メカニズムが最大限発揮されるような制度設計を行うことも重要となる。

お問合せ : report@tky.ieej.or.jp

◆ 本報告は、日本エネルギー経済研究所が平成 21 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究「原油の適正価格及び価格安定化に向けた調査研究」報告書の「3. まとめ」を、筆者の責任において加筆・編集したものである。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

* (財)日本エネルギー経済研究所 戦略・産業ユニット 石油グループリーダー